

下呂農林事務所の普及活動状況 令和6年11月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■長期研修生 就農計画認定審査会の事前レクを実施

下呂市では、長期研修中の2名（以下「研修生」という。）が来年4月の就農に向けた準備を進めており、就農地でのトマトハウス建設はほぼ終了している状況です。また、各種の支援制度を受けるため、「認定新規就農者」になるための青年等就農計画（以下「就農計画」という。）の作成も進めています。



11月22日には、市担当者と農業普及課が連携し、市へ提出された就農計画の内容を確認し、研修生に対し就農計画認定審査会（11月28日開催）に向けた事前レクを行いました。

【認定審査会事前レクの様子】

研修生に対しては、自らが作成した就農計画の内容、目標農業所得の積算基礎をしっかりと理解しておくことや、就農への意気込み、農業への熱意などを正確に伝えること、また、想定される質問とその回答案などについても助言を行いました。

研修生からは、「審査会で自分の就農計画をしっかりと伝えられるよう頑張ります。」など、前向きな姿勢が確認できました。

引き続き、農業普及課では、青年等就農資金の借入手続きや飛騨就農支援塾での講義など、研修生が円滑に就農できるよう支援を行っていきます。（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■フランネルフラワー 開花時期を予測するための調査区を設置

下呂市では、馬瀬地区の農家1名（栽培面積20a）が県育成品種のフランネルフラワーの切り花生産を行っています。

一方で、近年の高温傾向など影響により、開花時期が想定していた時期よりも前後にズレ、計画的な出荷ができないことが課題となっています。



このような中、農業普及課では、昨年度からフランネルフラワーの開花時期を予測できる技術を確認するため、草丈や蕾径などの生育データの蓄積を進めてきました。

【調査区設置の様子】

今年度は、これまでに蓄積したデータと県農業技術センターのデータを用いて、開花時期の予測を行い、データの信ぴょう性を確かめています。これまでの2回（春期及び秋期）の調査では、どちらも概ね予測どおりの開花となり、予測の精度も向上してきています。また、11月26日には、農家のハウスに冬季の開花予測のための調査区を設置しました。

今後、農業普及課では、開花するまでの生育状況を調査・蓄積し、開花時期を予測できる技術の確立を図っていきます。（地域支援係）